西川口幼稚園様　研修に参加して

西川口幼稚園様の１日の様子を見させて頂き、園児がとても落ち着いているという印象を受けました。外では元気に動き、部屋の中では席に座って話を聞くという切り替えができているため、部屋の中で大きな声を出す子や走る子はほとんどいませんでした。

私は今回、主に年少クラス見させて頂きました。年少クラスの園児の中には涙している子もいましたが、多くの子が１日の流れを把握し、自分の席に着き、周りの子を待つということもできていました。また、机を隣の席の子と共有しているため、隣の席の子との関わりも多く見ることができました。

パターンでは先生の元気な声やリズムの良い声かけを学び、自分にも取り入れていきたいと感じました。また、初めて行う活動をする際、初めに先生がお手本を見せながら説明し、子どもたちが終えた後にもう一度復習をして振り返りを行なっていました。今まで私は活動の説明をする際、終わった後に振り返ることは行なっていませんでしたが、今後取り入れていきたいと感じました。

大人数のクラスの場合、作業のスピードに個人差があるのは当然ですが、西川口幼稚園様の先生方は全員が揃うまで待つということを大切にしているのだと理解できました。早く終わってしまう子が飽きないよう音楽を流すなどの工夫はしていましたが、みんなが揃うまで待つ姿勢が既にできているのは素敵だと感じました。

午後の外遊びの際は様々な学年のお友達がボール遊び、一輪車、縄跳びなど自分のしたい遊びをそれぞれ自由に行っていました。一見危ないのではないかと感じましたが、これまで大きな怪我が無いということに驚きました。年少クラスが初めて外遊びをする際にルールを伝え、最初は年少クラスだけで外遊びの時間を作り約束事を徹底しているからこそ大きな怪我が起きないのだと知り納得しました。また、自由に遊ぶことにより自ら危険を察知する力が付くのだと学びました。他にもスモックのたたみ方や、席に座る習慣など初めの頃から徹底しておくことが重要なのだと感じました。

年少クラスのサーキーットは初めてということで室内でしたが、まずは園児に流れを知ってもらうため列に並び、順番に各種目を取り組むよう先生方は声をかけていました。そのため、ある種目だけを飛ばそうとする子や、同じ種目だけを繰り返そうとする子もいませんでした。

給食を食べる時は年長、年中クラスのお友達が配膳のお手伝いに来てくれるため、自然と関わりができるだけでなく、給食を食べる前に歌う歌のお手本を見せてくれるという点でもとても良いと感じました。年中年長と学年が上がるごとに鍵盤が上達したり、集中して字を書くようになったりするには毎日の反復や繰り返しが大切なのだと学んだため、日々の活動に意味があることを再確認し、これからも取り組んでいきたいと思います。

クラスで担任を持たせて頂いてから約１ヶ月間、お部屋で活動をしている園児の様子や、先生の動きなどを外から見る機会が無かったため、今回の研修では様々な気づきがありました。今回の研修をきっかけに１ヶ月間先生として過ごした自分を振り返るとともに、明日からの声がけや行動についてよく考え、より良くしていきたいです。

1年目

西川口幼稚園様　研修に参加して

今回西川口幼稚園様に研修に行かせていただき一番最初に感じたことは、どの学年も落ち着きがあり自分の机に真っ直ぐに向かうことが出来ているということです。また、保育者の方も子どもたちが落ち着いて活動することのできる声かけをしているように感じました。年齢が上がるごとに活動の内容が増え、移動する回数も増えているのに少ない時間で準備を行うことができるのは、身体的な発達の面もあると思いますが年少の頃から積み重ねてきた幼稚園生活での習慣が身に付いているからだと思います。習慣の大切さを改めて感じたため、自分が年少の担任になってからの１ヶ月半を見直し身支度や活動の準備など細かいところからもう一度丁寧に声掛けと援助をしていきたいです。

年少の体育ローテーションでは、鉄棒、バランス、ハイハイのような動き、ジャンプの４つの種目をホールで行なっていました。

西川口幼稚園様の子どもたちは並んで待っている際にお友だちを抜かしたり、列からはみ出したりする子がおらず、男女別にしっかり並んで順番を待っていました。また、保育者の方もそれぞれの種目で子どもたち一人ひとりがしっかり取り組むことができるように丁寧に見て援助していました。

私はこの様子を見る前は体育ローテーションは速く回って色々な種目を経験することも大切だと思っていました。ですが、西川口幼稚園様の体育ローテーションを見て、速く回って種目を沢山経験することよりも、まずは子どもたちがローテーションの仕組みを理解し、怪我のないように安全に取り組むこととそれぞれの種目でどのように体を使って行うのかを最初に丁寧に保育者が子どもたちに伝えることが大切だと学びました。今までの自分は速く回るように声をかけてしまっていた時があったのでこれからはその種目に対してどのように体を動かすか、次の種目はどこなのかなど子どもたちがスムーズに体育ローテーションに取り組むことができるような配慮を考えていきたいです。また、これから体育ローテーションの難易度が上がり援助する際もその力の強さを考え子どもが先生が手伝ってくれたからできたと感じるのではなく自分でできたと感じることのできる援助の範囲を学び、行なっていきたいです。

日課活動については、活動の内容は津久井幼稚園より少し多かったのですが、クラスのほとんどの子が最後まで集中して保育者の声掛けに応えていました。カードの速さも速く、子どもたちもその速さでスムーズに行なっていました。速さが遅すぎてしまうと子どもたちは飽きてしまうので程よい速さが必要だと学ぶことができました。今回学ぶことのできた速さを自分で実際に行い、子どもたちの様子を見て今の子どもたちに合っていて楽しく日課活動が行えるように考えていきたいです。また、歌の練習の際に歌詞を保育者が伝えるのではなく１番は何だったかなど子どもたちが考えて覚えることが出来るような声かけをしている場面が何度もあったので自分も取り入れ子どもが早く新しい歌を覚えて歌の時間が楽しくなるように心掛けていきます。

今回の研修で１番大切だと思ったことは、冒頭にも書きましたが、年少からの様々な経験の積み重ねと最初に幼稚園生活の習慣を身に付けることです。自分が今年少の担任を持っているので、最初から丁寧に全て子どもたちに伝えることの難しさを痛感している中なので今回の学んだことと自分なりに考えた声かけや援助をしていき子どもたちが自分のことは自分で行い学年が上がった時に年少でついた習慣の基礎を活かして幼稚園生活を充実させることが出来るように日々の積み重ねを大切にしていきたいです。

1年目

No.
Date . .

西川口幼稚園様 研修に参加して

今回、埼玉県の西川口幼稚園様に視察研修に行きました。朝、園の中に入ると子どもたちの多数が上半身裸で活動を行っていました。何人か体操服を着ている園児もいましたが、園児のほとんどが男の子も女の子も上半身裸で活動をしていました。はじめにサーキットの見学をすると、一つ一つの種目を始める前の子どもたちはしっかり並んでいて、始める時も先生方が一人一人確認してから行うようにしていました。鉄棒では、回ってただ終わりというだけでなく、着地した後の決めも見ていました。また、私たちの園にはない飛び込みという少し高い台から地面に着地するというもので、あとで園の方に質問をしてみると、転んだ時に足を踏んばれるように、バランスが取れるように、脚がつくようにということでした。サーキット後の片付けでは、片付けで子どもたちが喧嘩をすることがなく速やかに終わりました。その後、サーキットやマラソン、体操が終わったあとのクラスでの活動を見学しました。今回見学した内容は、ホールでの体育指導、発声やうたの練習、鍵盤練習、折り紙といったものでした。体育指導では、始めと終わりの挨拶は立って行うのでなく、正座をして「よろしくお願いします。」というものでした。そのあとでは、踏み箱の練習を行っていました。ただ踏み箱を踏むだけではなく、小さな箱を使って足を開いて閉じるという練習を行っていました。練習を行う際、子どもたちがどんどん進むのではなく、一人が行ってからまた一人と、必ず待ってから次に進むというものでした。後ろで待っている園児は必ず体操座りです。クラスへ戻ると、歌の練習や絵日記の読み、折り紙を行いました。先生方は子どもに常に言葉掛けや問い掛けを行っていました。何かを仕舞う際には整理整頓ができるよう入れ方の確認も行っていました。折り紙では難しい折り方も行っていて、年少やその下のもっと小さな学年から行っているそうで、難しい折り方にも子どもたちは丁寧に取り組んでいました。お昼は給食制で、準備してご飯をよそったり飲み物を入れ、食べ終わり最後の片付けまで先生方がサポートしながらも全て子どもたちが行っていました。歯磨きの習慣や、食べ終えて挨拶してからの机や床の清掃習慣も見受けられました。スモックを雑に片付ける様子も無く、年少時期に先生と一緒に丁寧に畳むことを教わっていることが分かりました。外あそびでは、あそびに危険がないか子どもたちの様子を見守るだけでなく、先生方も一緒になってあそぶ様子が見受けられました。一輪車やボールなどの遊具も豊富で事故もあったりするのではないかと思いましたが、子どもたち自身が危険を察知して自主的に身を守ることができるということを大切にしているそうです。今回、一日見学していて思ったのは、子どもたちが自主的に動けるように必要な言葉掛けや褒めることが沢山行われていること、子どもたちを待たせるという時間が短いこと、無駄な動きがほとんどなく、一つ一つの活動が丁寧に行われていて、活動に余裕があるように感じました。自身の園や自分が普段行っている活動を振り返ると、見直すべき点が沢山あると感じました。

NO.

DATE . .

西川口幼稚園様研修に参加して

初めて他園を視察し、津久井との相違点をみつけることができました。同じ総幼研でもサーキットの内容が違ったり、日課も違うなと思いました。以下の点が違うと思いました。

・津久井ではやっていない、上半身裸でサーキット、日課をやっていました。脱いでいない子どももいましたが、ほとんどの子どもが脱いでいました。子ども達に服着ていなくて寒くないのか尋ねると寒くないよと教えてくれ日常的に行うことで子ども達の体が強くなっていくんだと感じました。

・子ども達がとても落ち着いていました。教室での風景を見させていただくと子ども達は静かに担任の話を聞き、落ち着いた様子で日課、パターンを行っているのが見られました。主任の先生に伺うと年少時からしっかり基礎を作ることが大切なんだと改めて思いました。手の挙げ方、返事、パターンの方法など年少の時からしっかり行うことで子ども達の習慣がつき落ち着いてパターンをすることができるんだと勉強になりました。津久井ではやっていない漢文がパターンに入っていて年長児がスラスラ読めていたことにおどろきました。

・子ども達の食事は給食でした。年少児から配膳の練習をし、年中児になると自分達で給食室から給食を持ってくることから食べ終わりの片付けまでを行います。食べる前に子ども達は自分が食べることのできる量なのかを判断し、少なくしたり、多くしたりし、自分の量を決めていました。自分の胃の限界がわかりとてもいいことだと思いました。アレルギー食の子どもは保護者にメニューを伝え、似たものを代替食として持ってきてもらっているそうです。アレルギー食の子どもがお弁当を忘れてしまっても園では出さず誤食を防ぐことがしっかりされているんだと感じます。給食はたくさんの配慮が必要な上に誤食があってはこわいと感じますが、子ども達がたくさんご飯を食べる姿を見られるのはとても素敵だと思います。

・子ども達の机の名前だけがひらがなでした。机以外のかばんかけ、靴入れは漢字で記入されていましたが、机はひらがなでした。これは子どもがプリントなどに名前を書く時にいつでも見られるようにと机だけはひらがなにしているとのことです。こういう考えもあるのだと感じました。漢字でかかれているのも靴入れなどと統一感があり、見た目ですぐに分かるのでいいなと思っていましたが、ひらがなも良いと思いました。

1日見させていただいて法人は同じでも園によって方針は違い、伝統があるんだと思いました。取り入れたいと思った点がいくつもあり、とても勉強になりました。別の園も見てみたいと感じました。

Linden組　1年目

NO.

DATE

西いり口幼稚園様 研修に参加して

今回、西いり口幼稚園様を見学させて頂き、沢山のことを見て学ぶことができました。
まずは、津久井幼稚園でも、行っている、「褒めて伸ばす保育」です。
できていない子に声を掛けるのではなく、頑張っているお友達を褒め、周りのお友達がやる気を出してくるという保育を自分の中でも目標に日々保育を行っていますが、褒めることより、注意を促すことの方が多く、反省する日もありました。
そんな中、今日一日西いり口幼稚園様の年中クラスの一クラスを一日見させて頂いて、一日中細かな場面でも沢山、大袈裟なほど褒め、ずっと笑顔の先生を見て、「自分もこうなりたい!!」と思いました。またお友達の嬉しそうな表情や、周りのお友達の頑張る姿を見て、自分のクラスのお友達にもこう感じてもらいたいと思いました。沢山褒めることで、お友達のやる気はこんなにもでるのだと改めて感じることができました。
年中組のパターンに入っている、折り紙、鍵盤を見て、また話を聞かせて頂き、年少児から毎日欠かさず行うことによって上達する早さが変わっていくと感じました。
また、学年の先生同士でよく話し合い、週でも目標を細かく決め、各クラスの現状を話し合い進めていくことが大切なのだと学びました。
外遊びでは、すぐに自由遊びにするのではなく、まずクラスで遊ぶことにより、クラス内での友達の輪が広がるので、今の時期は特に、クラスで遊ぶ時間を入れるべきだったと感じました。また、外遊びの際、ケガ防止、危険のないようにするため、津久井幼稚園では沢山監視をしています。そのため、お友達と一緒に先生が遊ぶという場面がなかなかないのですが、西いり口幼稚園様を見て、先生と一緒に遊んでいる姿がとても楽しそうで、監視をしつつ、お友だちと一緒に遊べるようにできたらいいなと思いました。監視がなくて良い理由の一つに、4月の時点でまず、子どもたちにルールを細かく伝え、必ず守ることができるので、新入園児に関わらず、全園児に、もう一度園庭のルールを伝え、必ず守るよう促していきたいと思いました。
年少、年中、年長、どの学年もスモックをきれいに畳めていて、その理由が、年少児で最初の1ヶ月間、きれいに畳む練習を毎日細かく行っていると聞き、習慣づくことはとにかく、どんなことでも大切なことだと思いました。そのためには、保育者が、どんな理由があっても、習慣づけたいことは、必ず行うことだと学びました。

年中 二年目

西川口幼稚園様研修にて

今回研修をさせて頂き、自分の保育に取り入れたいと思うところを2つ見付けました。

１つ目は体育ローテーションで水色・赤のテープをホールの床に貼り付け、男女それぞれルートを迷わないようにしているところです。初めてとは思えない程、流れに沿って子どもが取り組んでいて驚きを隠せませんでした。テープを取り入れることで流れを間違えてしまう子どもが減り、保育者も種目ごと丁寧に声掛けが出来ることで子ども達も充実した体育ローテーションが出来るのではないかと思い、取り入れてみたいと思いました。人数が多いため男女色を決めるのではなく、一色でもテープを貼ることで流れを視覚的に伝えることが出来るのではないかと思います。

２つ目は、音楽を流すというところです。保育の合間に音楽を流し、子ども達を飽きないようにさせているところが素晴らしいなと感じました。活動の間は手遊びをして過ごしていますが、1日の生活で何度も同じものを行なっていると飽きる様子が見られ、他のことへ意識が行ってしまう事があるからです。手遊びだけでなく、もう一つの手段として取り入れることで飽きる姿が減り、沢山の音楽と触れ合う時間が増え、より良い生活を過ごせるのではないかと考え取り入れたいと思いました。沢山の音楽に触れることで音楽への関心も増え、子ども達が積極的に今後の音楽活動に取り組む姿勢が見られるのではないかと思います。

この研修をさせて頂き、自分の保育に何を足せばより良い保育になるのかとても考えさせて頂きました。今後、自分の出来ることはもちろん、子ども達と沢山のことを挑戦をしていき、子ども達と一緒に成長していけるように日々精進していきます。

年少　2年目

西川口幼稚園様　研修に参加して

今回、西川口幼稚園様を見学させていただき、日課活動、課題活動における最年少、年少、年中、年長の縦の繋がりがとても大切だと感じました。西川口幼稚園様はどの学年も活動ごとここまで出来たらいいという到達目標があり、全クラスが足並みを揃えていました。また、毎年同じ到達目標ではなく、その年度ごとの子ども達のレベルに合わせて、調整しているとのことでした。担当学年以外の年間の活動の進行状況の把握と元担任からの引継ぎをもっと密にしていくことが大切だと感じました。

体育ローテーションは用意された種目が多かったですが、すべての種目に保育者がついてるわけではなく、子どもたちだけで取り組むものもありました。子供たちだけ行うことのできる理由は、マットを引くなど安全面への配慮と種目に対しての踏切や着地の基礎がしっかり固められているからだと感じました。ローテーション中も先生方の前向きな声掛けが多く、その声掛けに対してさらに答え頑張る子どもたちの姿がとても生き生きしていて改めて、保育者の認める声掛けの重要性を感じました。体育ローテーション後の日課活動では、40 分間で無駄な動きがなく、保育者が次何をするという声掛けがなくても当たり前に鍵盤を用意し、日課活動の流れが子どもたち自身理解している様子でした。子どもたちが飽きないよう多少の変化を求めつつ、毎日繰り返すことを大切にしていきたいです。

年長　2年目

Date

西川口幼稚園様 研修に参加して

西川口幼稚園様では、主に年少組を見学させて頂きました。
ほとんどのお友達が長い時間落ち着いて座っていることができていました。
体育ローテーションでは、流れを覚えられるよう一つ一つは、簡単で
補助がなくてもできる物で、シールに沿って進み、前のお友達を
抜かさずに行えるよう、先生たちがたくさん声を掛けている姿がありました。
体育ローテーションの時間は5分と短かく、その後も短い曲、5曲程度で
リトミックを行っていてすごく楽しく体を動かしていました。
また、室内では、先生が何かしている間や、待ち時間のたびに
CDで音楽を流し、歌ったり、軽く踊りながら、暇にならないよう
工夫されていました。合間にクイズをしたり手遊びをしたりと、
子どもたちが飽きないよう取り組んでいる姿がありました。
外遊びの際は、他学年もいて、なわとび、ボール、一輪車など
様々な遊びをしていましたが、どの場所で何をするという
決まりはなく、制限がなくても安全に楽しく遊れていました。
年少組は4月から午前中に外遊びを行い、ルールや約束を
しっかりと守れるようにしてから、午後の活動でも外遊びを
するということでした。

西川口幼稚園様で研修させて頂き、もっと普段の自分の保育
で手遊びやお楽しみを取り入れるべきだと改めて感じました。
週案でおろして頂いたことを行うだけではなく、お友達が
楽しく、取り組めるようたくさんの工夫が必要だと思いました。
今回沢山の刺激を受け、とても勉強になりました。私自身まだ
2年目で経験も浅いですが、後輩の先生や他の先生に刺激
を受けてもらえるような保育ができるようになりたいと思いました。

2年目 年少

西川口幼稚園様研修を終えて

このたび研修させていただき、特に体育ローテーションとそれぞれの活動の進め方が印象に残り、津久井幼稚園でも取り入れるべきか検討したいことがいくつかあった。

まず年少児は体育ローテーションを室内で行っていた。研修日が初めての体育ローテーション参加ということだったが、園児たちは落ち着いており、保育者の見本が無くても流れを理解していた。床を見てみると、赤と青の線が四角を描くように引いてありその線の上に跳び箱やマットなどが配置されていた。そのため赤は女の子、青は男の子の線に沿って動くように伝えれば子どもにも動線が一目でわかるのだと気づいた。また話を伺うと、まず年少児は並んで前の友だちを抜かさないことを目標としていた。またしばらく種目は変えず同じもので、慣れたら動線を四角ではなくS字などほかに形にしたり廊下を通ったりしているとのことだった。それぞれできるレベルを上げつつ、飽きないような工夫をして子どもたちが楽しめるようになっているとわかった。さらに話の中で雲梯は着地の練習や下は通らないなどの約束事の確認などから始めると伺った。ローテーションなどに取り入れるにあったって約束事を確認することはもちろんだが、雲梯など種目そのものを最初から行うのではなく、できるようにするには何をすべきか、危険は何か、またそれを１人ひとりが回避できるようになるための練習からローテーションに取り入れる必要があると考えた。

次に印象に残ったのは日中の活動の進め方だ。基本的には各活動はみんなが終わるまで全員で待っていた。先の説明をして終わった人は次に進むのではなくそれぞれが終了するのを時間がかかっても待ち、一斉に次のことに進んでいた。この進め方だと一人ひとりの進み具合に差が出ない、声掛けが少なく済む、保育者が見守る範囲が少なくなるなどさまざまな利点がある。一方で待ち時間ができる、本当はもっとできる子どもが先に進めないという一面もあると感じた。しかし、それぞれのクラス、学年で目標や進展具合をそろえることで行事の時などの指導が明確になり、子どもたちの力を引き出しやすいのだと思った。したがって、到達目標を明確にし、共有して取り組み年少児はすべての基礎はゆっくり全員で行い、その他の活動は足並みを揃えるところは揃えつつ、それぞれの子どもの強みを伸ばしていく指導をしていきたいと考えた。

今回の研修で得たこと、考えたことを自分自身の保育に取り入れられるようにしていきたい。

年少　２年目

NO.

DATE

西川口幼稚園様　　石井修　　2019年5月13日

Lotus

朝の体育ローテーションでは、長く時間をとり、子どもたちは上裸で活動を行っており、私の園では職員は見る所が固定されていますが、西川口さんでは危険が多いものには職員が援助していますがうんていやマットなどにはおらず、職員が回って色んな種目の援助をしていて他の種目も見学させていただいて：子どもたちが何が出来ないのかどのように声掛けをしていけばいいのかを考えられるのでとても良いと感じました。

体育ローテーションはお話を伺った際に体育の先生が種目を考え子どもたちが出来そうなら1週間で種目を変えレベルアップしたり子どもたちの様子を見て変えていて、基本的には体育指導で行うものを取り入れているが新しいものの場合は必ず職員と話し合い援助の仕方を徹底しているとお聞きして、子どもたちも同じ種目じゃないので飽きることなく「出来た。」「新しいものにも挑戦してみよう。」という気持ちが子どもたちにもあるのだと感じました。

又マットや跳び箱は先生が2人で1人ずつ子どもたちが行い一人一人に声掛けをしている姿があり一人一人見ることでクラスの子どもたちが何が出来て出来ないのかを先生が理解することができ子どもたちともコミュニケーションが多くとれていると感じました。

部屋のピアノの位置が縦で子どもたちに背中を向けることもなく鍵盤なども全体が見えるので指導する上で効率的だと思いました。子どもたちも先生の顔が見れるので安心して落ち着いて活動に取り組めているのが見てて素晴らしいと思いました。

質問をさせていただいて、スモックをすごく丁寧に畳めていて年少さんもすごく上手なので日々の積み重ねですか？と聞きました。年少の初めから出来る子もいるが全員ができるように先生が一つ一つ丁寧に畳み方を教えているとお話を聞き、綺麗に畳むことを私の園でも指導しているのでたたみ方を活動に取り入れたいと思いました。

この石井修を生かして自分の保育を見直し、子どもたちと楽しく過ごしていけるように日々努力をしたいと思います。

KOKUYO

西川口幼稚園様研修に参加して

研修に参加して感じたことは、どの学年も落ち着いているということです。1学期が始まり1ヶ月が過ぎ、年少児クラスもきちんと座って取り組めているのに驚きました。日課活動等も、積み重ねが大切だと改めて感じました。

体育ローテーションは早バスのお友達が朝に行い、遅バスのお友達は帰りに行っていると聞きました。私は、その方がクラスの活動時間が増え、日課活動にも力を入られると思いました。しかし、早バスの友達で行うのは職員も少ないということで、サーキットの種類も限られてしまうと思いました。津久井でも、早バス、遅バスで分けたら、効力率が良と思いますが、サーキットの内容の改善も必要になってくると感じました。補助が必要な種目、そうでない種目を明白にすることも大切に感じました。また、補助の部分で良いと思ったのは、鉄棒です。私たちは、鉄棒の間で声を掛けることしかしていません。西川口幼稚園では、鉄棒の近くで補助をする職員が2名いました。逆上がりの補助を行い、1人で出来る子は、空いている所で行っているので、ほとんどのお友達が逆上がりが出来てて驚きました。私たちも、年長職員1名、年中職員1名で逆上がりの補助を取り組みたいと感じました。

日課活動は、職員から目を離さず見るお友達が多くいたと思いました。職員は、集中力が切れないよう、テンポよく進めていて、見てる私も楽しく参加出来ると感じました。自分のパターンも、テンポよく、お友達が楽しく集中して取り組めるよう頑張りたいと思いました。リズムパターンも、机、自分の頬を使う等、手拍子だけでない取り組みに、「それも1つの方法なのか」と思い、実践してみようと思いました。

今回の研修で、たくさんのことを学び、取り組みたいと思う内容もありました。可能な範囲で、取り入れられたら、今よりも、もっと良くなると思いました。

3年目　年長

NO.

DATE

西川口幼稚園様の研修に参加して

今回の研修で主に年中クラスの保育の様子を拝見させて頂き、特に3つのことが印象に残りました。1つ目は活動時の先生方の子ども達に対する声かけです。朝のサーキットでの応援の声かけや部屋での活動を進める声かけなど、普段の自分の子ども達に対する声かけを改めて振り返り、再度学ぶことができました。どの活動も子ども達の集中力を大切に、また自分で出来ることは自分で行う力が一人ひとり強い姿が見られました。先生方の声かけや姿を見て、子ども達が楽しく活動に取り組み、さらに一人ひとりの力が育つよう、私自身もさらに成長し、日頃の保育をより良くしていきたいです。

2つ目は、環境作りや整理整頓についてです。お部屋での様子は年中に限らず、他の学年も拝見させて頂きましたが、どのクラスも収納棚が少ない中でもきちんと場所を分けて使い、部屋での活動をスムーズに行えるよう工夫されていると感じました。また、外遊びの際、砂場や大きな遊具に限らず、ボールや一輪車などにも触れられる機会があり、それぞれに遊びたいものを使って過ごす子ども達の姿がとても印象的でした。遊び始める前に子ども達と約束を確認し、保育者が近くで見守る姿は共通しているので、幼稚園によっては使用している玩具は違っていても、子ども達が楽しくのびのびと過ごせる環境は素敵だなと改めて感じました。

最後に3つ目は、1つ目の子ども達への声かけも含まれますが、約束事の徹底についてです。返事や話を聞く時の子ども達の姿勢や視線を全員がきちんと出来るまでは次の行動に進まない徹底した環境を見て、日頃自分自身も約束事は曖昧にならないよう伝えてきましたが、それでも自分の保育の様子とは差があると感じました。当たり前のことを一人ひとりがしっかりと行えるよう、先生の声かけを工夫して、自分のことは自分で出来るよう促す環境を作ることが大切であり、より徹底することが出来るのではないかと考えました。毎日の積み重ねが大切であるということも改めて学んだので、これからの保育をより良くできるよう再度、自分の保育を見つめ直したいと思います。

今回の研修を通して刺激を受け、学び得たこともありますが、再度自分の保育の様子等を振り返り、どのような声かけや環境作りをしていきたいのかより明確になり、今後の保育にも生かしていきたいと思います。

年中

KOKUYO

西川口幼稚園様研修に参加して

今回、西川口幼稚園様を見学させていただき、全ての活動の基礎を作る事の大切さを改めて感じました。

特に体育ローテーションでは、年少クラスを見学しましたが、4種目という少ない種目数で丁寧に活動を行っているように感じました。日々サーキットを行っていると、どうしても混雑する事を気にし、焦ってしまい丁寧に指導できなくなる事がありますが、西川口幼稚園様では、この時期に、前のお友達を抜かさない事を定着させるのを目標、とするなど、子どもの成長に合わせた指導ができていると感じました。年少クラスのうちにきちんとルールを守れるようになるため、年中、年長児は、一種目ごとに先生がつかなくても自分たちで流れ良くサーキットを行えていて素晴らしかったです。

また、年少児は、今日がはじめての体育ローテーションでしたが、テープの上にしっかりと並び男児は青、女児は赤に分かれて素早く移動でき、はじめてなのにすごいなと感心しました。

私のクラスでは、自分の性別がはっきり理解できていないお友達がいますが、西川口幼稚園では、靴箱を男女で分けているため、自分の性別の意識をきちんと持ち、すぐに並べるとの事でした。

日々の生活の中の小さな事が他の活動につながる事が分かりました。自分の保育の中にも小さな工夫をたくさん取り入れていきたいです。

また、西川口幼稚園様は子どもたちも、先生方の動きも、とても落ち着いた雰囲気で、その雰囲気作りには、先生方の声のボリュームが関係している事が分かりました。私は普段、子どもたちに話を聞いてもらうために、つい大きな声で話し、"話を聞く時はお話はしません。"など、言葉で説明しがちですが、今日、見学させて頂いたクラスでは、あえて小さな声で話し子どもたちの耳を傾かせるように話していました。そうする事で自然とクラスのざわつきもなくなり話を聞く姿勢がとれるようになっていました。とても良い雰囲気作りで、私も保育に取り入れたいと思いました。

今回学んだ事を活かし、同じ総幼研の幼稚園としてさらに良い保育ができるよう頑張ります。

3年目